

平成28年度第1回秋田県立美術館アドバイザー会議（要旨）

- 1 日 時 平成28年10月28日（金） 午後1時半から午後3時まで
- 2 場 所 秋田県庁第二庁舎52会議室
- 3 出席者 秋田県立美術館アドバイザー事務局

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 生涯学習課長あいさつ
- (3)

①報告（委員 事務局）

■「異界をひらく展」「斎藤真一展」「県民作品展」全て見た。「異界をひらく」は全国的にみてもレベルも高かった。秋田の人間として誇りに思った。展示も大変工夫されていた。このような学芸力を培っていただきたい。現代作家の展示は作品を購入できると大変いい。若い作家が多いので将来的には県の財産になる。県民作品展はたまたま見たのだが、美術顧問や近代美術館長さんが審査するなど人脈を活かしていると思った。反面、広報があまりされていない。もう少し広報されてほしい。中央とのつながりを大切にしてほしい。

■「異界展」「斎藤展」は非常によかった。誰が企画したのか。ここに指定管理者がいないのかを不思議に思っている。

□われわれ（県）の課題として受け止めたいためである。

■趣旨はわかるが、当事者がいたほうがいい。

■私も実際に美術館の方がいることを希望する。是非次回から検討していただきたい。

■ホームページについて、URLの掲載よりQRコードがあるとすぐ検索できると思う。

■魁新聞の販売店が近くにあり、秋田市の美術館と近代美術館のポスターは貼っているが県立美術館のポスターがない。なぜか？

□他の展覧会が新聞社と実行委員会を組んでいる関係もある。

②協議

■アンケートとか取っているかと思うが、改善点とかはないのか？そこから課題は見いだせないのか？

□アンケートに答えている方は展示の内容についての感想が多い。「面白かった」「ちょっとちがう」「嗜好が同様の展覧会をやってほしい」という意見がある。

■「利用促進」で『秋田の行事』の利用というのはおかしいのではないか。

□県民ギャラリーが利用されていないのが一番の大きな課題。使いづらいという意見がある。そのあたりを踏み込んで意見いただきたい。

■旧美術館に比べてみると搬入口がよくない。駐車場がない。前はけっこう良かったのになぜ無くしてしまったのだろうという現状認識。

□昨年利用者にアンケートをとらせていただいた。搬入口のことは今初めてきいた。そう

いった意見をどんどん出してほしい。

■展示壁面の融通がきかない。

□そういった意見が我々の後ろ盾になる。出していただいた意見を反映させていきたい。

■動線について、入って同じ入り口を帰るのは使いづらいので考えてほしい。非常階段（西側の階段室）に案内がある。木の展覧会で北側の壁を外していたが、外からみてもすごくきれいだった。

■美術館の建物がコルビジェ風。重文級のものを展示するのは難しい。現代美術の作品など展示の工夫が必要であるし、それをしっかり管理をする必要がある。県がどれくらい心を決めることができるかが問われる。

□水や光を使用する作品が出てきている。

□壁を外して展示するなど、まだ特色あることができる。

■現代アートはそういうところを許容していかなければいけない。その後の予算、環境、清掃をどうやっていくのか。体制を考えていかなければならない。某美術館ではチョウチヨを飛ばしたいという作家がいた。そういうことにも理解して空間を活用していくのかということ。

■準備の時間が10:00~18:00。とてもつらい。管理の問題ということで閉めるのはかわいそうかなと思う。展示のための準備時間、前日の夜などはもっと遅くまで空けてほしい。

□勤務時間の問題もあるが指定管理者との契約の中で考えていきたい。

□スポットライトが不足している。毎年少しづつ増やしていきたい。

■すでに利用実績のあるかたと、まだ使ったことがないかとはとらえ方が違うと思う。人口が減ってきている。今かかせないのは教育とのつながり。JRC「学校を美術館にみたくて」活動等、子供たち、一般の方がものを創る活動はかかせない。枠は確保しつつ、敷居を低くすればいいというものではない。

■大学の授業で経営論を担当しているので指定管理者制度に興味がある。民間に委託している立場からそのメリットをどのように感じているのか？

□民間の感覚を取り入れられるのは最大のメリットだと思う。フレックスに対応できるのが一番のよさ。今のままでは指定管理者に旨味がない。利用料金制を取り入れている施設もある。利用者が増えれば収入も増える。県立美術館ではそのインセンティブが見いだせない。今後の指定管理者制度を考えた場合、そういう仕組み作りも考えていきたい。公的なものであればより多くの県民に利用していただきたい。

■実態としてうまくいっていると考えているか？

□関係は悪くないと思っている。旨味がないのでそういう工夫をしていきたい。直営でやるよりも自由にやれることがある。

■国は独立行政法人。運営費も年々減っている。県と平野財団はどうか。

□5年間の上限の総額は決まっている。全体のシーリングがかかっているのでまぶされる。

■ありがとうございます。

■今回「異界」で図録を作成しなかったのはなぜか。

□お金もそうだが、作成する時間もなかった。

■県美で図録がないというのはいかかなものか。

■展覧会をみてすっきりしないことも図録でわかることもある。学芸力をつけるためにも今後必要である。

■全国美術館会議で混ぜてもらえる人材づくりが非常に重要。一館でできないこともできるようにする。県民ギャラリーと展示室は分けて使いたいのか？

□現在移転して5年目。動線に手をかけていく必要もあるのか？一体として使うか？分けて使うか？色々と検討したい。

■県民ギャラリーは旧美術館から踏襲している貸しギャラリーである。

□そもそも12万人という数字が適切なのか？それぞれ独立した形で使うと分けて考えている。

子どもたちに対する手立ては色々とやってきている。県民ギャラリーが利用されていない日が多い。県が使っても使用料を払っている。減免規定はないのか？安くないのか？など聞かれる。値段が安ければ利用されるのか。旧県美については秋田市さんが今後活用策を考えていくことになる。

■撮影、テレビ、CMで使ってもらってはどうか。場所の価値をあげる。「聖地巡り」が若い人を中心に流行しているが、画像を撮ってもいい部屋をつくってSNSで発信してもらおう。キャラクターをつくるなどは有効ではないか。

■入ってすぐのところにダメダメボード（利用者への注意板）がある。あれは印象もよくない。

□商店街の方々に特別展の内覧会をして、呼び込みサポーターになっていただいている。「秋田の行事」のミニチュアレプリカなども活用しながら宣伝していきたい。

物語、ストーリー、千秋美術館さんとも一緒になっているものもある。共通パスポートについては、料金の問題もあるがなんとかクリアしていきたい。

■秋田市の中でも作れない状況。なかなか難しいと思う。

□人を回遊する仕組みを作っていきたい。

□今年は北海道、北東北美術館の会議を秋田県でおこなった。

■そうしたネットワークでつながっていけばいいと思う。

(4) 閉会